

特集

# 高知に、春が

有限会社 あぜち食品

花きびが呼び起こす、幸せな気持ち。  
このささやかなひな菓子を巡って、  
今年も、人の思いが行き交います。

久保慧菜 取材  
河上展儀 写真



淡いピンク、黄、若草色、そして白。ひし餅と菜の花を合わせたような優しさ

高知で暮らす  
女性たちのお菓子

花きび。この名を口にすると、温かい思いが胸の内に流れます。毎年、春が来るたびに売り出される、色の付いた、甘く愛らしいポップコーン。高知特有のお菓子ですが、とりわけ女性にとっては、ひな祭りのお菓子として愛着があります。ひな祭りにしてはお供えている家庭も多く、淡いピンクや黄、若草色に彩られた花きびは、おひなさまの華やかな装束に優しく寄り添います。また、最近では結婚式の引き菓子にピンクと白を添えることもあるそうで、人生に幸多かれと願う女性たちが気持ちを託す、高知の食文化といえる存在です。

この花きび、以前はもっと濃い色でした。あぜち食品が2003(平成15)年に製造元から受け継いだとき、パステル色にして、手にする機会も増やしてきました。そして15年、県外へも販売する中で、花きびを通じたお客さまとの温かい交流が次々に生まれています。手作りの製造や丁寧な対応はもちろん、春を呼ぶ「花きび」という商品そのものにも、善き力が宿っているのかのよう感じられるのです。



撮影協力/近森人形